



上映・シンポジウム

8月17日(日) (開場 13:30) 14:00～17:00

小ホール (定員:250名)

① オープニングイベント 14:00～14:10
 ② ドキュメンタリー上映 14:10～15:00 ③ シンポジウム 15:10～17:00

まんもう
「満蒙開拓団」を通して戦争の影を見つめる
 ドキュメンタリー『沈黙の奥底～河野村分村が問いかけるもの～』上映とシンポジウム

かいらい
 傀儡政権「満洲国」に渡った日本人移民の多くは、貧しさの中で国策に乗り、現地の人の土地を奪う側に立ちました。戦後 80 年、満蒙開拓の過去を通して、被害と加害が絡まりあった戦争の実態について、考えてみたいと思います。

パネリスト

進行


胡桃澤伸 さん
 (精神科医、劇作家)


寺沢秀文 さん
 (満蒙開拓平和記念館館長)


神子島健 さん
 (東京工科大学教授)

ドキュメンタリー
 『沈黙の奥底～河野村分村が問いかけるもの～』より



© 信越放送



映画

8月19日(火) (開場 13:30) 14:00～16:00

小ホール (定員:250名)

手話あり

『祈り ―幻に長崎を想う刻―』上映

戯曲「マリアの首」の映画化の作品です。原爆投下から 12 年後の長崎。戦争の記憶と傷跡を残すため、被爆マリア像の残骸を運び出す二人の女性の生き様が描かれ、長崎を最後の被爆地にとの平和への祈りが伝わってきます。

出演：高島礼子 黒谷友香 田辺誠一 ほか
 主題歌：「祈り」 歌：さだまさし



©2021K ムーブ / サクラプロジェクト

要事前申込

講演

8月23日(土) (開場 9:30) 10:00～12:00

会議室 1 (定員:80名)

手話・要約あり

多摩市平和展連続講演(第12回)
「戦後 80 年～戦争と平和の歴史から学ぶこと～」

戦後 80 年、今年は平和展にとっても大きな節目の年です。この 80 年間に、世界では朝鮮、ベトナム、イラン・イラク、そして今またロシア・ウクライナと戦争が絶えません。戦争と平和の歴史から我々が学ぶこととは？


山田朗 さん
 明治大学文学部教授・
 明治大学平和教育
 登戸研究所資料館館長

やまだ あきら

事前申込方法について ※先着80名、7月22日(火)より受付開始

公式ホームページのインターネット手続き、電話 (042-376-8311)、FAX (042-339-0491) のいずれかでお申し込みください。
 ※ FAX の場合は「イベント名」「氏名」「電話番号」「住所」をご記入ください。

第34回多摩市平和展

— すべてのいのちに平和な地球を —

2025年8月17日(日) – 8月24日(日) 10:00～18:00

パルテノン多摩
入場無料
(会期中は無休)



今の世界は怖いですが
あなたの声が平和をつくる

オープン
スタジオ

8月17日(日) (開場 10時30分) 11時～12時30分
被爆ピアノコンサートと講話

※詳細は第3面参照

「被爆ピアノ」とは原爆投下時、爆心地より約3キロ以内で原爆の爆風、熱線、放射能等の被害を受けたピアノです。広島で被爆したままの姿で今日まで生き続ける「被爆ピアノ」の音色が平和の尊さを問いかけます。

オープニングイベント **8月17日(日)** (開場 13:30) 14:00～17:00 **小ホール** ※詳細は第4面参照

① オープニングイベント 14:00～14:10 ② ドキュメンタリー上映 14:10～15:00 ③ シンポジウム 15:10～17:00
まんもう
「満蒙開拓団」を通して戦争の影を見つめる
ドキュメンタリー『沈黙の奥底～河野村分村が問いかけるもの～』上映とシンポジウム



市民ギャラリー

展示

広島基町高校の生徒と被爆体験
証言者との共同制作による「原爆の絵」

今年は被爆80年、戦争体験を記録した貴重な絵です。見て、感じて、平和が続くようにしましょう。



「変わり果てた広島の花街、新天地」
作／山中亜美 所蔵／広島平和記念資料館

戦後80年、戦争の傷跡を見つめる
満蒙開拓平和記念館展示パネルと
福島菊次郎写真パネル

戦後80年を考えると、戦争の加害と被害の事実を見つめる必要があります。シンポジウム『満蒙開拓団』を通して戦争の影を見つめる」に合わせ、戦争がもたらした傷を考えるための展示を準備しました。



満蒙開拓平和記念館内の様子



福島菊次郎氏 © 那須圭子

オープンスタジオ 定員:60名



被爆ピアノコンサートと講話

8月17日(日) (開場 10:30) 11:00～12:30

手話あり

80年目の証言者が、音と共に語りかける——今を生きるあなたへ



やがみつりの
矢川光則さん

(株) 矢川ピアノ工房。広島県出身の被爆ピアノ調律師。全国で「被爆 (ひろしま原爆) ピアノ、平和コンサート」を行う。



はますみじろう
濱住治郎さん

日本原水爆被害者団体協議会 事務局次長。広島の出産内被爆者。2024年12月、オスロで開催されたノーベル平和賞授賞式に出席した。



らいん
早志正史さん

(ヴォーカル・広島県出身) 地元・多摩市を中心に地域とつながりながら、平和への祈りを音楽に託して「結ぶ音、つなぐ音」を紡ぐ。



らいん
早志富美さん

(ピアノ・東京都出身) 地元・多摩市を中心に地域とつながりながら、平和への祈りを音楽に託して「結ぶ音、つなぐ音」を紡ぐ。

広島で被爆した「被爆ピアノ」は当時の姿のまま演奏できるよう修復されました。全国で被爆ピアノの平和コンサートを行っている矢川ピアノ工房・矢川光則さんのお話と、広島出身で多摩市を中心に活動している夫婦ユニット「らいん」による被爆ピアノの演奏、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協事務局次長・濱住さんの言葉が平和の尊さを問いかけます。

報告・
お話し会

8月18日(月) (開場 14:15) 14:30～15:30

高校生による平和学習の報告と
平和絵本のお話し会

都立永山高等学校の生徒が、修学旅行先「広島」での平和学習を報告し、「平和」などをテーマにした絵本、紙芝居を読みます。今年度はさまざまな角度から平和につながるお話を選びました。

展示

高校生から平和へのメッセージ
～広島への修学旅行から～

都立永山高等学校3年生は昨年、平和学習の一環として広島に修学旅行に行きました。核兵器の恐ろしさを知りました。“二度と核兵器は使用しない”平和の大切さを作文を通して皆さんに伝えます。



原爆死没者慰霊碑前にて

報告会

手話・要約あり

8月24日(日) (開場 13:30) 14:00～16:30

令和7年度 多摩市 子ども被爆地(広島)派遣成果報告会

派遣員自らの言葉で被爆地「広島」を通じて学んだ平和への想いを伝えます。
長崎出身のシンガーソングライター カツルミさんによる歌と平和へのメッセージもあります。

お話し

若い人たちへの伝言
～語り継ぐ戦争体験～

(開場 12:30) 各回 13:00～14:00

8月18日(月) 朝倉美佐子さん

「多摩市周辺での子どもとしての戦争体験」

8月20日(水) 片山麻佐子さん

「機銃掃射の恐ろしさ、戦後の世の中の変遷」

8月21日(木) 山上壽子さん

「九死に一生を得た東京大空襲の前日」

展示

令和6年度
派遣事業成果報告
作文・活動アルバム

令和6年度 子ども被爆地派遣の様子



講座

8月23日(土) (開場 14:30) 15:00～17:00

たな

多摩と田奈から考える旧日本陸軍の弾薬製造

多摩火工廠と、現在の「こどもの国」にあった田奈補給廠は、どちらも旧日本陸軍の工場、主に砲弾や弾薬に関わる製造をしていました。地域で兵器を造っていた、とは、どんな意味を持ったのでしょうか。資料をもとに考えていきましょう。



か こしまけし
神子島健さん
(東京工科大学教授)

展示

か こうしょう

多摩火工廠とその後の変遷

かつて稲城市と多摩市にまたがって旧日本陸軍の火薬工場があり、その後は「米軍多摩弾薬庫」、現在は「米軍多摩サービス補助施設」となっています。その90年近くに及ぶ歴史と経緯が一望できます。新たな展示物を出品予定！



半地下式倉庫(稲城市教育委員会所蔵)

展示

ワークショップ報告「戦争とこども」

多摩と田奈の学徒勤労動員の手記と、多摩火工廠の女学生ご家族のお話から、危険さを知らされずに働いたこどもたちについて学びました。戦争遺跡を間近で見られる田奈補給廠の写真や、ワークショップに参加した若者の感想などを展示します。



「こどもの国」弾薬庫入口

展示

平和関連の絵本・
紙芝居・本の展示

今でも世界中で紛争が止みません。それらの紛争を題材にした本が、近年多く出版されています。そういった本を中心に今年は選んでみました。



協力：多摩市立図書館